

かさくさるま

44号
連携の風

CLOSE UP 眼科のご紹介



眼科スタッフ

CLOSE UP

- 眼科のご紹介
- 市立札幌病院『すずらんネット』のご紹介

TOPICS

- 「すずらんネット」を利用した薬薬連携の取り組み
—第60回全国自治体病院学会発表 優秀演題受賞—

INFORMATION

- 連携医療機関のご紹介『市立病院前老年内科メモリークリニック』
- がん相談支援センターをご利用ください



市立札幌病院

● 基本理念

すべての患者さんに対して その人格・信条を尊重し つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

● 役割

- ① 高度急性期病院として地域の医療機関を支える。
- ② 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える。
- ③ 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する。
- ④ 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する。

● 役割を実現するための6つの基本目標

- ① 市民の命を守るため、他の医療機関からの受け入れ要請を断らない医療を実現します。
- ② 地域の医療機関と緊密な連携体制を構築します。
- ③ 医療を担う人材を育成するとともに、先進医療に貢献します。
- ④ 医療の質を常に向上させます。
- ⑤ 患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します。
- ⑥ 業務の効率化を徹底し、健全な財政基盤を確保します。

眼科のご紹介

市立札幌病院 眼科 木下 貴正



当科は白内障、緑内障、網膜硝子体疾患、その他眼科全般の疾患を対象に診療を行っております。2020年以降のコロナ禍で入院、手術を制限しなければならない状況が続き、近隣の医療機関の皆さまには多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。2022年は制限が緩和され、白内障手術1,270件、網膜硝子体手術600件、緑内障手術60件など手術件数は回復してきました。特に硝子体注射は3,257件と過去最多になりました。これもひとえに当科の診療にご理解くださり、多くの症例をご紹介いただいた皆さまのご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

硝子体手術は網膜剥離、糖尿病網膜症、網膜上膜、黄斑円孔などを中心に、未熟児網膜症から加齢黄斑変性に至るまであらゆる網膜硝子体疾患を対象に行っております（図1）。近年は難治性黄斑円孔に対する自家網膜移植術や糖尿病黄斑浮腫に対する黄斑部嚢胞切開術を含め、最新の手技を用いた治療も行っています（図2）。手術成績の向上には多くの技術の習得を要しますが、手先のテクニックの習得に終始せず、確かな知識と病態理解に基づいた治療を常に心がけることで、難症例や術中の急変にも対応可能になるものと考えます。このため、定期的に科内での症例検討会や勉強会を行い、講演会、学会での発表、論文作成による自己研鑽を推奨しています。同時にこのような情報発信のほか、近隣の先生方にご参加いただく小規模な講演会も開催し、顔の見える関係の中で当科の診療を『見える化』し、円滑な病診連携の構築にも努めております。

硝子体注射は加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管、未熟児網膜症などに適応があり、当科は全国有数の治療件数となっています。以前から多数の国内外臨床試験にも参加しており、現在も複数のグローバル試験および国内臨床試験に参加するなど、最新知見のアップデートに努めております。

緑内障治療では従来からの点眼、手術療法に加えて2022年にマイクロパルス経強膜毛様体光凝固機器を導入し、難治症例の他、点眼アドヒアランス不良例や点眼アレルギー症例に対しても治療を行い、良好な結果が得られています。

手術日は月～金の毎日で月・水・木は全身麻酔にも対応いたします。白内障手術は日帰り手術（日帰り入院手術）も可能です。眼内炎、網膜剥離、手術合併症例などに対する臨時手術にも可能な限り遅滞なく対応いたしますが、外来、手術室の状況によっては早急な対応が困難な場合がございますので、このような症例をご紹介くださる際には事前にお電話（Dr to Dr患者紹介専用ダイヤル011-788-6570）でのご連絡を下さりますようお願いいたします。

今後も最新の知見と技術に基づいた確実な治療を行い、地域の医療機関から信頼される眼科を目指して一同精進してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

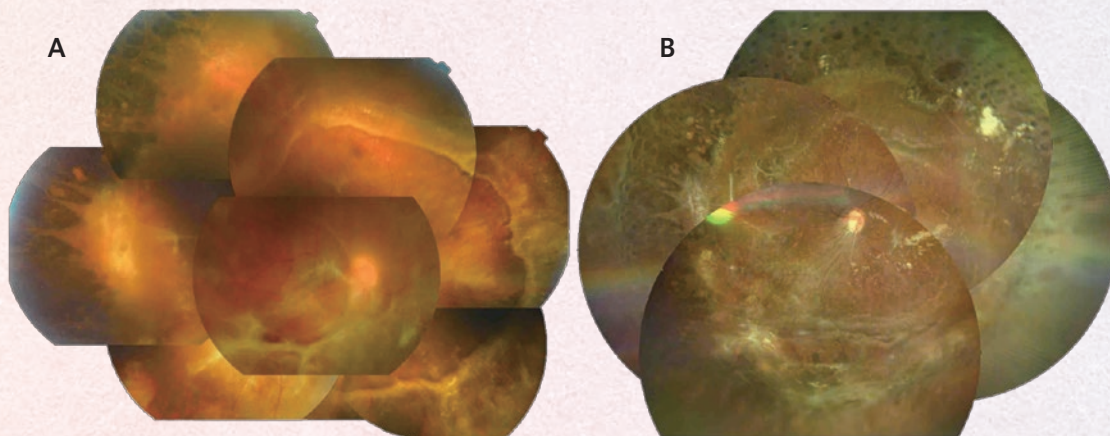


図1 色素失調症に生じた難治性網膜剥離

A：術前眼底写真。黄斑円孔を合併した牽引性網膜剥離を認める。

B：術後、網膜は復位し、黄斑円孔は閉鎖した。

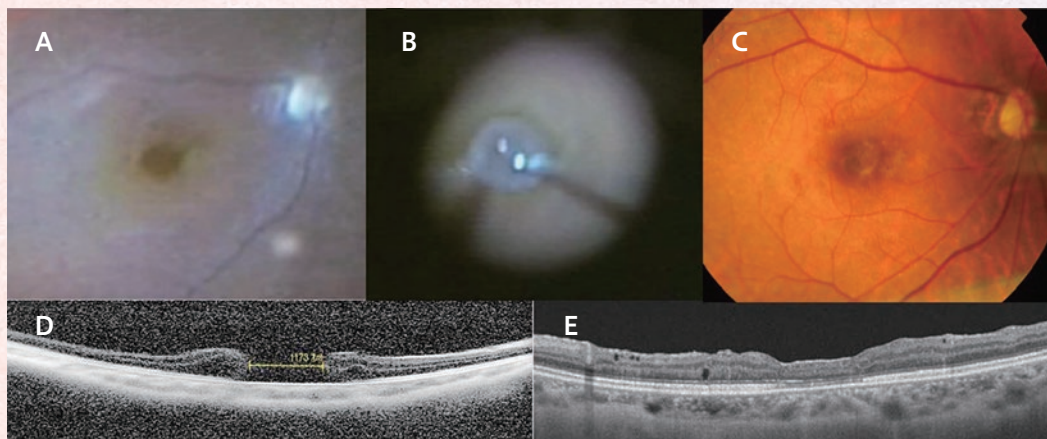


図2 大型黄斑円孔に対する自家網膜移植術

A：大型黄斑円孔に対して、B：網膜移植片を採取し、黄斑円孔内に移植した。

C：黄斑円孔は消失した。D：術前、E：術後光干渉断層写真

開放型病床のご利用について

市立札幌病院では、地域の医療機関の皆さまに継続的に診療を行っていただくため、一般病棟に「開放型病床」を5床運用しております。

入院した患者さんを、かかりつけ医(登録医)と当院医師が共同して治療を行いますので、患者さんの入院前、入院中から退院後まで一貫した継続治療を受けることができます。

当院におきましては、近隣の眼科クリニックからの「開放型病床」ご利用実績もあります。

ご利用にあたっては事前に登録医申請が必要になりますので、詳細につきましては下記までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

市立札幌病院 地域連携センター 地域連携係 TEL：011-726-2211(代)

市立札幌病院『すずらんネット』のご紹介

【はじめに】

市立札幌病院地域医療情報ネットワークシステム『すずらんネット』は、患者さんの同意の下で参加施設が当院の診療情報をネットワーク経由で参照可能となるシステムです。当院が有する患者情報を地域の医療機関と共有し、患者さんへの継続的で良質な医療福祉サービスを提供することで、地域住民の健康福祉の増進に寄与することを目的として、2016年1月から開始しました。

インターネットを介した診療情報の公開には、高いセキュリティの維持や個人情報の保護、同意手続き、利用規定や運用ルールの策定等、様々な課題に対処する必要があります。『すずらんネット』は、システム構築を予め3段階に分けて計画し、診療情報の公開範囲や連携機能の追加について、運用する中で直面する課題に対処しながら、将来的な拡張性を担保したシステム導入を段階的に行ってきました。

【STEP 1】

当初は、14施設に対して患者基本情報やアレルギー情報、処方、注射、検査結果、DICOM画像を公開することから始めました。利用状況やユーザーのニーズ、運用を開始したことで判明した課題等について院内で検討を重ね、次のステップを目指しました。



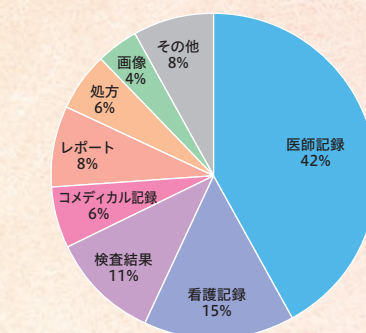
【STEP 2】

2018年1月からは、診察記事や各種レポート、診療情報提供書、退院サマリ、循環器動画、オーダー情報などを公開項目に追加しました。追加された項目のニーズは高く、医師記録はもちろん、看護記録やリハビリ記録、服薬指導記録などのコメディカル記録も活用されています。レポートについても、透析記録、画像診断レポート、病理検査レポートの他、前のページで紹介している眼科のカルテシステムから作成される眼科レポートなど、多くのレポート形式の情報を公開し、参加施設にご利用いただいています。

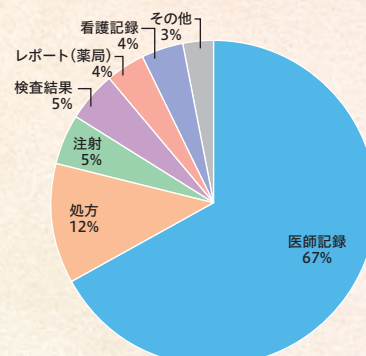
また、医療機関に加えて近隣の保険薬局にも公開対象を拡大しました。患者さんからの聞き取りや処方箋、お薬手帳のみでは情報が不足する場合も、『すずらんネット』を活用することで、患者さんとのコミュニケーションや服薬指導に活用されています。（※『すずらんネット』を用いた薬薬連携に関しては、続く5ページにてご紹介しておりますのでぜひご覧ください。）

【STEP 3】

2023年5月から、電子カルテシステムの更新に伴い『すずらんネット』は富士通Human BridgeからSEC ID-Linkへとリニューアルしました。厚生労働省が発行する「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠したセキュリティを担保しながら、以前よりもログイン作業が簡便となっています。Windows



カルテ分類別参照割合（医療機関）



カルテ分類別参照割合（保険薬局）
集計期間：2022年1月～2023年3月

のほか、MacやiPadに対応し、操作につきましても、カレンダー形式の画面を基本として、各種アイコンから対応する診療情報を直感的な操作で参照することができます。

『すずらんネット』は、国内でも診療情報の公開範囲が広い部類のネットワークであり、電子カルテおよび各部門システムと連携可能な診療情報の大半を参加施設に参照していただくことができる体制を整えています。

そして今回、STEP3の新機能として双方向連携による情報共有を可能としたことで、ネットワーク参加施設からの診療情報のアップロードや、当院と同じようにID-Linkを利用してネットワークを構築している情報開



示施設との連携も可能となりました。さらに、DICOM画像のダウンロード機能により、『すずらんネット』上での画像参照に加えて、任意の画像をダウンロードして参照施設側のサーバーに取り込み、自院のビューアで参照できるようになりました。これらの追加された機能につきましては、参加施設のニーズを考慮しながら効果的な活用方法を検討していきます。

【最後に】

国が進める医療DXでは、「全国医療情報プラットフォーム」の創設や電子カルテ情報の標準化により、医療機関等同士のデータ交換・共有の円滑化に向けて検討されています。この構想に関しましては、実現までの期間やコストの問題などを含め、現時点では不明瞭な点が多々ありますが、いずれにしてもICTを活用した診療情報の共有化はこれから一段と進むことが想定されます。

『すずらんネット』におきましても、これまでは“市立札幌病院が情報開示病院となり参加施設に対して診療情報を提供するサービス”として、当院を中心としたクローズドな運用を行なってきましたが、双方向連携が可能となったことで、他のネットワークとの連携も視野に入れて検討を始めています。

今後は、中長期的な視点では国の政策を鑑みつつも、当面は『すずらんネット』を活用されているユーザーの皆様の声を大切にしながら、札幌市内を中心に日々の診療に貢献できるシステムと運用を目指し、地域完結型医療を推進するための一助となるよう、努力してまいります。

『すずらんネット』は新規の参加お申し込みを受け付けております。

- この記事を読んで『すずらんネット』や地域医療情報ネットワークに興味を持った方
 - 市立札幌病院に紹介した患者の転帰をすぐに知りたい方
 - 共同利用で依頼した検査の画像とレポートをすぐに見たい方
- などなど、この機会にICTの流れに乗ってみませんか？

お問い合わせ

すずらんネット事務局（地域連携係）
TEL：011-726-2211 FAX：011-726-9583
E-mail：c_chiren@city.sapporo.jp

病院ホームページはこちら⇒

すずらんネット



「すずらんネット」を利用した薬薬連携の取り組み —第60回全国自治体病院学会発表 優秀演題受賞—

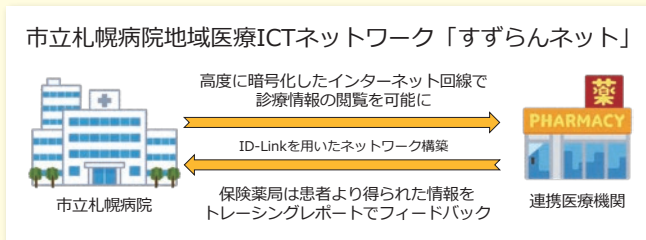
市立札幌病院 薬剤部 宍戸 桃子

2022年11月に沖縄で開催されました第60回全国自治体病院学会にて、「薬薬連携深化にICTを使う-市立札幌病院と近隣8薬局のがん化学療法における薬薬連携の取り組み-」という演題で発表し、薬剤分科会推薦最優秀演題に選出いただきました。その内容について紹介します。

【はじめに】

外来で抗がん薬治療を受ける患者さんの多くは、病院で処方された薬を保険薬局で受け取っています。外来がん化学療法を安全に行うために、病院と保険薬局の間で情報共有を行うことが重要です。

市立札幌病院と近隣薬局では、地域医療ICTネットワーク「すずらんネット」を活用した薬薬連携を行っています。がん化学療法においては2020年6月より連携強化の取り組みを開始しました。



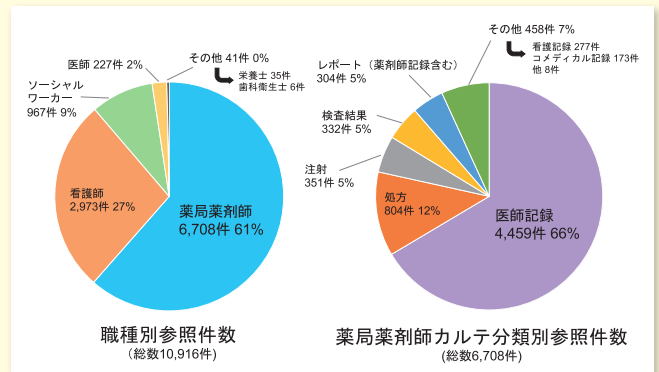
【すずらんネットの活用】

「すずらんネット」により『医師記録』『病院薬剤師の服薬指導』等のカルテ情報を閲覧することができます。がん化学療法施行患者に対する病院薬剤師による服薬指導記録は、指導内容の他、保険薬局へ確認して欲しい要点も記載し、患者モニタリングに活かしてもらうようにしています。保険薬局では投薬後電話服薬サポート等で患者の状況を確認し、得られた情報をトレーシングレポート(服薬情報提供書)で病院へフィードバックします。

がん化学療法に対応した本院のトレーシングレポート様式

【すずらんネットの利用状況】

2022年1月1日から8月31日において連携医療機関による「すずらんネット」利用状況を調査しました。カルテ参照件数は、職種別で『保険薬局薬剤師』が最多でした。また、保険薬局薬剤師による閲覧項目は『医師記録』が最多でした。保険薬局において、処方箋記載内容や処方箋に付記されている検査値の情報だけでは十分な治療内容の把握は難しく、処方箋からは読み取れない医師の診断、治療方針や処方意図の理解に利用されていると考えられます。



【薬薬連携】

人的資源不足から、病院薬剤師による外来患者へのモニタリングには限界があります。「すずらんネット」を活用した診療情報の共有により、病院と保険薬局の双方で患者モニタリングの補完を行い「タスクシェア」としての薬薬連携が可能となっています。加えて、この仕組みを最大限活用するべく当院薬剤部と近隣保険薬局間では連携会議を月に一度開催し、情報交換や病院薬剤師による抗がん薬レジメン解説などを継続的に実施しています。また、双方の薬剤師が参加して医師による症例解説等の勉強会を開催し、スキルアップを図るとともに「顔」の見える関係性の構築にも努めています。

今後も近隣保険薬局との「連携深化」を目的として「すずらんネット」を活用したがん薬物療法における薬薬連携を行っていきたく考えています。

連携医療機関のご紹介

市立病院前

老年内科メモリークリニック



中野 正剛 院長先生

当院は2022年11月1日、市立札幌病院の向かい側にあります、ほくやく桑園ビル2階に開院いたしました。診療科目は老年内科、老年精神科、内科となっております。

院長の中野正剛は日本老年医学会専門医、日本認知症学会専門医、日本老年精神医学会専門医、日本内科学会認定内科医であり、認知症診療を専門としております。

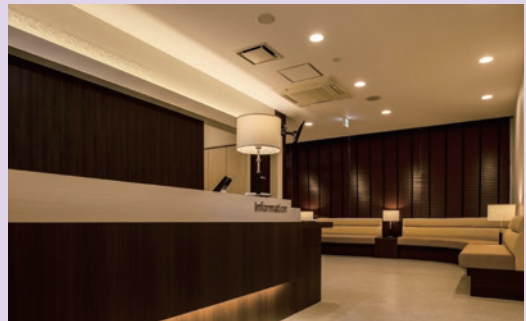
市立札幌病院の向かい側に位置することから、市民の皆さんにわかりやすい「市立病院前」を名称の最初にさせていただき、認知症を標榜する診療科が存在しないため院長の専門分野である、『老年内科』と東京などでは一般的となりつつある、もの忘れ外来を意味する『メモリークリニック』をクリニックの名称といたしました。

診療内容ですが、認知症の診断と治療を行う『もの忘れ外来』を中心

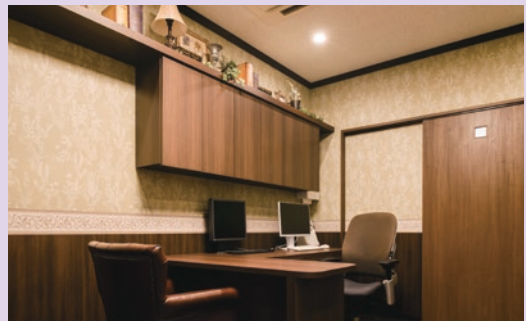
に、高齢者は一人で複数の疾患を併せ持つ特性があることから、高血圧症や脂質異常症などの慢性疾患をあわせて診療する『老年内科』、近隣でご勤務されている方や地域居住の青壮年層を対象とした「内科診療」を行っております。

『もの忘れ外来』につきましては、毎日新患を受け付けております。院長による診察と心理士による詳細な心理検査を院内で行っています。また、認知症診療には欠かせない画像診断は市立札幌病院へ依頼させていただき、高精度の診断を実践しています。正しい診断に基づき、患者さんやご家族からお話をお聞きしながら適切な治療を行うよう、心がけています。

認知症はいったん発症すると治らないからと言って早期に受診されない方がまだまだ多くいらっしゃる現状ですが、早期に診断し治療や介護へ繋げることでより良い生活を送ることができます。少しでも気になる症状がありましたら是非ご相談ください。



受付



診療室

●診療時間

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	—	●	●	●	●	●	—
14:00~18:00	—	●	●	●	●	●	—

※受付終了時間：AM 11:30 / PM 17:30

※休診日：月曜、日曜、祝日

●交通案内

住所：〒060-0011 札幌市中央区北11条西14丁目1-1 ほくやく桑園ビル 2F
TEL：011-788-8005
ホームページ：https://roumemosap.jp

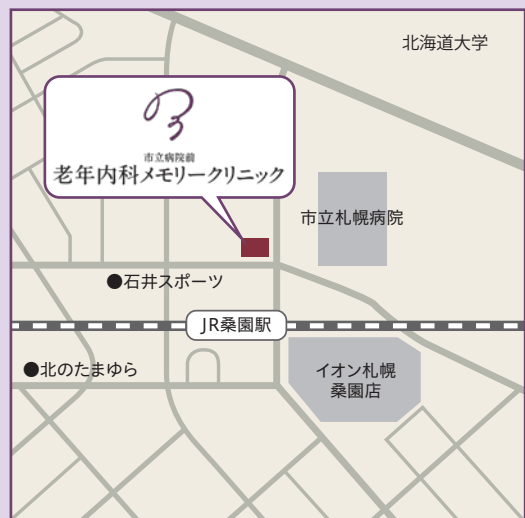
●駐車場のご案内

駐車場は敷地内にあり。満車の場合は桑園駅近辺の駐車場をご利用ください。

●公共機関

JR函館本線「桑園駅」下車徒歩約1分

札幌市営地下鉄東西線「西11丁目駅」下車徒歩約22分



がん相談支援センターをご利用ください

当院は「がん診療連携拠点病院」として「がん相談支援センター」を設置し、相談員（看護師、医療ソーシャルワーカー）が、がんの治療や療養生活全般に関する不安や悩みについて対面や電話でご相談に対応しております。

当院に通院・入院中の患者さんやご家族の方はもちろん、他院に通院されている方など、どなたでも「がん相談支援センター」をご利用いただけますので、お困りの方がおりましたらお気軽にご連絡ください。

がんの病気には様々な不安や心配がつきまといます。そんな患者さんやご家族のお話しにじっくり耳を傾け、一人一人に合った解決方法を共に考え探します。

- ◆ご相談は無料です。
- ◆予約制ではありませんが、時間帯によってはお待ちいただくことがありますので、可能な方は事前にご連絡ください。



「やさしさサロン かたろーね」について

当院では、がん患者さんご家族の方へのサポートを目的としたがんサロン「やさしさサロン かたろーね」を開催しております。

患者さん、ご家族の方が集まり、悩みや不安などの気持ちを語り合う場です。病気や治療、生活についてのミニ講座やリラクセスを目的としたイベントなども開催しています。

今回は、**2023年11月16日・2024年1月18日**を予定しております。

市立札幌病院 がん相談支援センター

TEL : 011-726-8101(直通)
 受付時間 : 月曜日～金曜日(土日祝日・年末年始を除く)
 9時00分～12時00分、13時00分～17時00分

こころの悩み、だれかと話したい...

症状について相談したい、他の人はどうやって乗り越えたの？、なにかサポートはある？

気軽に話せる やさしさサロン **9月から再開します!**

かたろーね

患者さん、ご家族の方が集まり、悩みや不安などの気持ちを語り合う場です。病気や治療、生活についてのミニ講座やリラクセスを目的としたイベントなども開催しています。

かたろーねって？

奇数月 第3木曜日
 9月21日・11月16日・1月18日
 (3月はお休みします)

日時 13:30～15:00

場所 市立札幌病院 2階 旧患者食堂

お申し込み、参加費用は不要です
 お問い合わせは下記までご連絡ください
 ☎011-726-2211 <http://www.city.sapporo.jp/hospital/>

市立札幌病院 がん相談支援センター 〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目1

編集後記 ～自主性を育むということ～

我が家には小3の長女がおりますが、この4月から長女の小学校では「宿題」がなくなり、その代わりに「自主学習」なるものが始まりました。小学校からは「子どもがより主体的に学ぶ姿勢を育むためのもの」との説明でしたが、あくまで子どもたちが「自主的に自分で学びたいことを考えて自分のペースで学習する、ということのようでした。日本で生まれ育った昭和生まれの私にとっては、“子どもにとってなんてハードルの高いことをいきなりするのか？”と思ったのですが、意外にも長女は「好きなこと勉強していいんでしょ？先生に言われたこと嫌々するよりよくない？」とクールに一言。なので、あえて手伝わすにどうするのか様子見していましたが、世界中の国旗をカラフルに書きこんだり、まだ習っていない地図記号を自分で調べて書いたり、テストで間違えた問題を改めて自主学習として書いたり、と毎日自由に楽しそうに学習しています。私こそ「自主性」を育んで物事をいろんな角度から柔軟に考えられるようにしたいと、小3の長女から学んでいます。(山本記)